

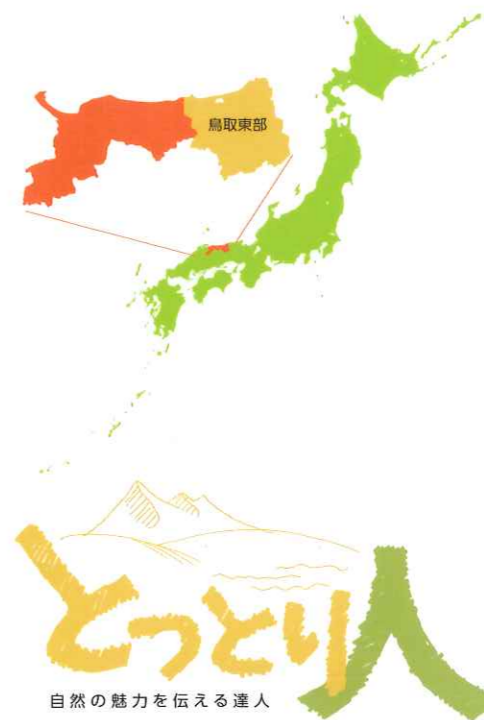
# とっとり人

自然の魅力を伝える達人



海に、山に  
大自然に心も身体もあずけよう。

# TOTTORI-人



自然の魅力を伝える達人

発行: とっりの元気づくりプロジェクト 東部チーム  
(事務局/ 特定非営利活動法人地域スポーツ推進協会)  
お問合せ: (公財) とっとり県民活動活性化センター  
TEL 0858-24-6460  
東部担当 080-2928-1055

平成29年3月発行  
※本誌掲載の情報は平成29年3月までに取材したものです。  
※無断転載、コピーはご遠慮ください。

本プロジェクトは日本財団の「鳥取助成プログラム」を活用しています。

## TOTTORI-JIN INDEX



自然を生かした水辺遊びの達人

**長谷川浩司** ..... p.03  
KOJI HASEGAWA



ポニーと共に大自然のプレイヤー

**大堀貴士** ..... p.05  
TAKASHI OBORI



浦富の波を知り尽くした海男

**山下明男** ..... p.07  
AKIO YAMASHITA



浦富海岸に魅せられた水中写真家

**中谷英明** ..... p.09  
HIDEAKI NAKATANI



空から砂丘を散歩するパイロット

**片岡義夫** ..... p.11  
YOSHIO KATAOKA



子どもたちのヒーロー 氷ノ山の心優しい山男

**森岡則明** ..... p.13  
NORIAKI MORIOKA



自然豊かな森に子どもたちの声を響かす開拓者

**西村早栄子** ..... p.15  
SAEKO NISHIMURA

「とっとり人」番外編

**座談会** ..... p.17  
ZADANKAI

# とっとり人

自然の魅力を伝える達人

日本最大級の鳥取砂丘や透明度の高い浦富海岸を中心とした山陰海岸ジオパーク、氷ノ山を始めとする中国山地の山々など「豊かな自然」に囲まれた鳥取県東部はパラグライダーやシーカヤック、スキーなどのスポーツやレジャー体験だけでなく森のようちえんや田舎暮らし体験など自然を活用した取り組みを提供している人がたくさんいます。

この情報誌では、鳥取県東部の豊かな自然に寄り添いその魅力を最大限に発信する人たち「とっとり人」を紹介します。

とても魅力的な人たちです。一度会いに来て下さい。  
「とっとりで待っています！」

【ととりの元気づくり東部プロジェクト】  
鳥取県東部の強みである「豊かな自然」を活かしてNPOや地域づくり団体などが主体となって日本財団と鳥取県の共同プロジェクト「鳥取助成プログラム」を活用し「県東部の自然の魅力を活かした自然体験の普及促進」をテーマにした活動です。

【東部チーム】  
幹事長：岡屋口貴仁(特定非営利活動法人 地域スポーツ推進協会)  
副幹事長：長谷川浩司(鳥取県自然体験塾)  
幹事：大堀貴士(特定非営利活動法人 ハーモニカレッジ)  
幹事：岸本雄司(すなばスポーツ)  
幹事：徳本敦子(鳥取 森のようちえん 風りんりん)  
幹事：浜崎大輔(鳥取しゃんしゃん祭振興会)

# 自然を生かした水辺遊びの達人



カヌーから始まった自然体験は、  
今では、海も山も川も  
まるごと楽しめる体験塾へ。  
ここなら、こんなこと出来るんじゃないかな。  
日々、鳥取の自然の中で思いめぐらせている。

鳥取県自然体験塾 代表

## 長谷川浩司

KOJI HASEGAWA



### 美しい浦富海岸

### 友人のひとこと

もともと鳥取カヌークラブを平成2年にスタートして、この体験塾となつてからはもう10年くらい経ちます。16年くらい前に浦富の海をカヌーに乗って案内した時に、「この海を案内するんだったら、いくらでもお客さん呼んでいきますよ、長谷川さんやんない！」と言われて、やってみようかな思ったんです。  
浦富海岸というのは、世界的に

見ても面白いポイントで、またその当時は鳥取で自然体験をしようと言つても、キャンプくらいしかイメージがなく、他の自然体験をしようと思つても道具が必要だったりするので、そこを整えて地元の人からもっと馴染んでもらうことが必要なのではと考えました。

### 「Beautiful Fun!」の声

体験内容にもよりますが、シャワークライミングでは鳥取西部や兵庫、関西エリアの方の体験が多いです。浦富海岸で体験できるシーカヤックやクリアカヌーだと香港や中国の海外の方も多く体験されています。  
シャワークライミングなどは一般的にもまだ定着していないので、初めて体験する方がほとんどですが、「とっても楽しい！またやりたい！」「水がきれい！」と皆さんに喜んでくれます。また、「道具を身につけて体験するので安全で安心して楽しめる」と言われます。

### 豊かな自然を守り、そして、伝える

この鳥取東部エリアは海外の方も含めて、もっと人が来てほしいのではと思える場所ですね。浦富のカヌーは現在1シーズン5千人弱です。現在これに対応しているのが2事業社。今後は1万人くらいまで目指したいと思う中で、もっとその受け皿が必要になるのは当然。自身がその先例として後輩たちに道を作っていければと思っています。

今の浦富海岸も百年経てば、おそらくこの地形ではなくなっています。



いつも信頼できるスタッフが自然体験をサポートします。

天然のシャワーで豪快な水遊び！子どもたちはしゃぐ声の中に響きます。

整備されていない自然の中で、安全に楽しめるよう常に目を配っています。

舟底が透明なクリアカヌーなら風景だけではなく海の中まで楽しめます。



森を通じて心と身体を癒す森林セラピー。



溪谷の自然を体感できるラフティング。

鳥取の人が生活するのにちょうどいいサイズなんではないかと。都市部のような過密感はなく、もちろん過疎感もありますが、人が集まることだけが、地域の活性化につながるというわけではなく、人が多ければ起きる問題もある中で、このサイズ感での生活は自分に合っているのかなと。  
そんな生活だから、鳥取は子どもやおじいちゃんやおばあちゃんも、元気でいられるのではないかと思います。



遊びのフィールドは無限大。夏は海、冬は山へ。



約20年前のハーモニカレッジ寄宿塾

互いに次々と与え合うライブ感覚のキャンプが本当に楽しくて。大学卒業してすぐここに来ました。それから20年経ちます。

### 馬・自然体験・遊び 出張ポニー

体験として3つのカテゴリーを用意しています。一つ目は馬のプログラム。二つ目は自然体験としてカヌー、SUPボード、ツリーイング、シャワークライミング、スキー、スノーボードなど、自分たちスタッフが指導者となって、シーズンに応じた体験を行っています。そして、三つ目が遊びです。遊びは子どもたちが自然発生的に遊ぶこと、例えば、ターザンごっこをしたり、秘密基地を作ったり、子どもたちが自由な発想で遊ぶことを遊びと呼んでいます。この3つを組み合わせ、体験を通して学ぶという、社会教育を行っています。

障がい者と馬のかかわり  
スタッフでプレインストミーニングして意見を出し合ったりしているのですが、その中で実現に動きだしそうなものが、障がい者と馬のかかわりです。

昨年はその大阪の友人たちが予算を工面してくれて、僕の生まれ育った街のお祭りに仕事として呼んでもらいました。初めて馬を連れて故郷に凱旋しました。

また、大阪のボランティア時代の友人が鳥取に子どもを連れて来てくれて、今でも一緒に遊んでいます。

波があればサーフィン、年中できるのはクライミング、冬はスキーやスノーボード。プライベートでも基本外で過ごすことが多いですね。

また、大阪のボランティア時代の友人が鳥取に子どもを連れて来てくれて、今でも一緒に遊んでいます。

特に活動の中で主になるのは馬との生活なんです。馬や自然のリズムに合わせて生きることを体験して、命を大切に作る気持ちや感謝の心を学びます。

また、出張でポニーの乗馬体験などを行っているのですが、いろんな保育園や幼稚園でポニーを通じて交流しています。

20年やっているけど、その当時参加していた子どもたちが、大きくなって今はこのボランティアとして支えてくれています。

ライフワークは自然体験活動  
波があればサーフィン、年中できるのはクライミング、冬はスキーやスノーボード。プライベートでも基本外で過ごすことが多いですね。

また、大阪のボランティア時代の友人が鳥取に子どもを連れて来てくれて、今でも一緒に遊んでいます。

また、出張でポニーの乗馬体験などを行っているのですが、いろんな保育園や幼稚園でポニーを通じて交流しています。

20年やっているけど、その当時参加していた子どもたちが、大きくなって今はこのボランティアとして支えてくれています。

ライフワークは自然体験活動  
波があればサーフィン、年中できるのはクライミング、冬はスキーやスノーボード。プライベートでも基本外で過ごすことが多いですね。

また、出張でポニーの乗馬体験などを行っているのですが、いろんな保育園や幼稚園でポニーを通じて交流しています。

20年やっているけど、その当時参加していた子どもたちが、大きくなって今はこのボランティアとして支えてくれています。

ライフワークは自然体験活動  
波があればサーフィン、年中できるのはクライミング、冬はスキーやスノーボード。プライベートでも基本外で過ごすことが多いですね。

また、出張でポニーの乗馬体験などを行っているのですが、いろんな保育園や幼稚園でポニーを通じて交流しています。

20年やっているけど、その当時参加していた子どもたちが、大きくなって今はこのボランティアとして支えてくれています。



故郷大阪に馬を連れて凱旋。



ポニーの世話や掃除も子どもたちの大切な役目です。



スタッフと多くのボランティアで運営しています。

馬がそばにいるだけで自然と子どもたちの心が耕されている。しっかりと耕された心には何が芽生えてくるのだろうか。子どもたちの無限の可能性が楽しみでたまらない。



特定非営利活動法人ハーモニカレッジ 理事長

# 大堀貴士

TAKASHI OBORI



特定非営利活動法人ハーモニカレッジ

鳥取県鳥取市越路大谷752-1  
TEL0858-72-2468  
<http://www.harmony-college.or.jp/>

鳥取の街を一望する。空山ポニー牧場「ハーモニカレッジ」。キャンプや乗馬、ポニーの世話を通じて、世代を超えた仲間と心ゆくまで遊びながら、子どもたちがたくましく自信、思いやりを身につけられる機会を提供し、応援しています。

## ポニーと共に 大自然のプレイヤール

# 浦富の波を知り尽くした海男



この先もずっと  
浦富のこの美しい海を  
楽しみたいし、守りたい。  
そして、子どもたちに  
海の過ごし方や海の安全を伝えていきたい。



団体での体験依頼も多数のスタッフでサポートします。



SUPボードは目線が高いので浦富のクルージングにベストです。

シーカヤックのスタッフを経て  
1カヤック体験プランを10年ほど  
前から始めました。そしてSUPボ  
ード体験プランは独学で5年ほど  
前からしています。

### 抜群の透明度は 訪れた人達を魅了する

浦富海岸は遠浅で初心者の方に  
安全に体験していただける環境で  
す。日本海の荒波で浸食された浦  
富海岸の岩肌は壮大で迫力ある  
光景です。小回りのきくカヤック  
なら間近で見られます。浅瀬が多  
いので透明度の高い浦富の海は、  
SUPボードの上からでも観察で  
きます。

どれをするにも、鳥取の浦富海  
岸の景観に感動します。

サーフィンは地元の方が多いで  
すが、シーカヤックとSUPボード  
は関西圏からの家族連れが多いで  
す。特に近年、親が子どもに自然  
体験をさせたいという傾向があり  
ます。なかなか都会では体験でき  
ないことから増えてきました。そ  
のため二人乗りのカヤックや子ど  
も用のウエットスーツも増やしま  
した。

また海外からの体験者も増えてい  
ます。なんとか身振り手振りに対応  
していますが(笑)みなさん水の透  
明度の高さにとても驚かれますね。

### 冬はサーフィン 夏はSUPやカヤック

海仲間と年に数回、県外のポイ  
ントにサーフィンに行くことがあ

ります。あと、日本サーフィン連盟  
の鳥取支部長をしているので、年  
に一度は全国大会に鳥取の選手を  
引率しています。

冬は波があるのでサーフィンだけ  
ですが、夏場の波のない時はSUPボ  
ードをしたりカヤックをしています。  
海にしかないですね、それしか  
やったことがないんで、海以外の  
過ごし方が分からないんです(笑)  
それだけお世話になってる浦  
富海岸ですから、ビーチクリーン  
も定期的に行っていますよ。

### 出張体験スクールや 出前授業

岩美北小学校の児童が毎年東浜  
で遠泳をしているんですけど、合わ  
せてサーフィン体験をしています。  
去年はさらにその前にプールでま  
ず予備練習をしてから海でサーフ  
イン体験しました。それが子ども  
たちにとっても好評だったので、そ  
ういう活動を増やしたいと思っ  
ています。



Develop SURF&SEA 代表

# 山下 明男

AKIO YAMASHITA



Develop SURF&SEA

鳥取県鳥取市湖山町東3-51-1  
TEL0857-31-4885  
http://develop-ss.com/

鳥取市のサーフショップ Develop SURF&SEAオーナー。  
日本サーフィン連盟 鳥取支部長/日本サーフィン連盟 A級  
ジャッジ



### はじまりは サーフィン人生の 延長から

今から27年前に初めてサーフィ  
ンをして、そこからずっとサーフ  
イン人生です。

サーフィン好きが高じて、20年  
ほど前にサーフショップを構えて、  
サーフィン体験の指導はその当時  
からやっています。ただ日本海は  
夏場に波がないので、夏場にでき  
ることないかなと模索していた  
時、鳥取県自然体験塾の長谷川さ  
んに出会いました、長谷川さんの

サーフィンを知って、興味を持  
って、たくさん地元の子どもが  
体験して、地元サーファーが増え  
ていけばいいなと思います。

将来的には、海に触れ合える学  
校みたいなものを作りたいです。  
2020年東京オリンピックには  
サーフィンがオリンピック種目に  
も加わりますしね。

### 海に子どもたちの 元気な声を

僕は20歳の頃からサーフィンに  
ハマって、今日までずっと海で遊  
んでいるのに、今は10代、20代  
地元の子が海に少ないのが寂しい  
ですね。

だからやっぱり、地元の子ども  
たちにサーフィンの出前授業など  
を通じて、サーフィンの楽しさを  
伝え、子どもたちが海で過ごす時  
間を増やしていきたいです。  
それが鳥取の元気につながって  
いくと思います。



岩美北小では毎年サーフィン体験をしています。

Tottori Blue Snorkel & Photo Service 代表

# 中谷 英明

HIDEAKI NAKATANI



浦富海岸と魚に魅せられて

小5の時に初めて城原(しらわら)海岸に来て感動!そこから海中心の生活です。海の生き物(魚)に興味を持って中学の頃から海で写真を撮り始めました。  
九州大学では海に潜って魚の縄張りや産卵などの生態を研究していました。最初の就職先は兵庫県庁の水産課。鳥取県庁水産課の募集がその年なかったのです。その後、鳥取県庁へは平成5年に神戸市からUターン。



Tottori Blue Snorkel & Photo Service

TEL080-3871-0901  
https://totoriblue.jimdo.com/

水中写真家・スノーケルガイド。1年を通じて若美町浦富海岸で海中世界を撮り続けている。県庁マンを経て、2014年4月に山陰海岸ジオパークの助言等を行う鳥取県政ジオパークイザリースタッフに就任。  
著書「Tottori Blue」[さかなクンの山陰海岸ギョギョ図鑑]



うらとめ

## 浦富海岸に魅せられた 水中写真家

あるときは浦富海岸の  
スノーケルガイド兼水中写真家。  
またあるときは、  
真つ赤なカニのかぶり物をかぶった  
魚とカニの博士『かにクン』

### 特別な体験を残す 撮影サービス

最も好評なのは海中の写真撮影サービスです。データで写真購入もできるので、お客様がインスタグラムやFacebookなどのSNSによくアップロードされます。ありがたいことにそこから拡散して広告につながっていますね(笑)  
おかげでリピート率が約7割程度にもなります。年を重ねることにリピーターが増えるのでハイシーズンにはすぐに予約で埋まってしまう。

### 海・うみ・ウミ ときどき山

冬でも海です。SUPボードでクルージングやサーフィンしたり、珍魚探しをしたり。スキーやスノーボードで冬山に上がったつもりですが(笑)常に気象をチェックして、好天日に備えて体調管理をしています。SUPボードサーフィンは始めてまだ3年、とても楽しい。もっと早くやるときやよかったです。

### 官と民のスピード感

兵庫県庁と鳥取県庁を勤務して強く感じたのは、鳥取県庁の風通しのよさ。例えば鳥取県の人口は兵庫の10分の1以下、面積も4割です。このコンパクトさが鳥取のスピード感、ひいては元気感に直結していると感じます。官と民の距離感にもつながっていて、鳥取らしさを生かした様々な取り組みが始まっていますね。

### さかなクンとの出逢い

さかなクンとは出会ったその日にステージ共演しました。松葉ガニのイベントだったので急遽手配したカニをかぶって「かにクン」デビューだったのです。

さかなクンとの共著となる「さかなクンの山陰海岸ギョギョ図鑑」では、浦富海岸で潜って見られる魚を解説しています。お魚マニアな青少年少女がこの本を熟読してやっています。自分が小5の時に海の生き物に心ときめかせたように、今の子どもたちが第二のさかなクンのようになって鳥取の海の魅力を発信してもらえたらいいですね。ちょっと気が長いですが後継者を育てている気持ちです。



海中でまたとない瞬間の表情を切り取ります。



「さかなクンの山陰海岸ギョギョ図鑑」著:さかなクン&中谷英明(かにクン)(2013:今井出版)山陰海岸で見つけたお魚たちの表情を、さかなクンのイラストと水中写真で紹介。鳥取県庁在職中に出版した。



「かにクン」として様々なメディアに登場し、鳥取の海の魅力をPRしています。

# 空から砂丘を散歩するパイロット

砂丘の風を知り尽くし  
安全なフライトを約束する。  
それは鳥取砂丘を  
三十年以上、飛び続けているからこそ。



初心者の方でも数十メートルの高さから飛ぶことができるのは鳥取砂丘ならではです。

丘だどの方向からでも飛ぶことができます。高さも変えられる、風も安定するという効率の良さがあります。そして一番は障害物がないことと、柔らかな砂地に着地できるので、怪我なく安全に体験できます。

### まずは馬の背まで歩くことから

ほとんどの方がネットなどの情報を見て体験されるのですが、口コミやリピーターの方もいらっしゃるの、それは私たちにはとても励みになります。

他の場所で体験された方は、ここ（鳥取砂丘）だと高い所から飛ぶことができた！と言って喜ばれます。安全な砂丘ならではの思いがあります。中には馬の背まで歩いて上がるので、飛ぶ前に体力を消耗されてしまう方もいらっしゃいますが、景色を楽しみながら砂丘を歩くことも、この砂丘パラグライダーの楽しみ方の一つだと思って、合わせて楽しんでいただきたいです。年齢制限もないので、2歳の小さなお子さんから80代の方まで体験されました。馬の背まで上ることができればどなたでも飛ぶことは可能です。

### 娘2人と親子3人飛行

大阪に住んでいる7歳と5歳の娘と一緒に過ごせない時間が多いので、仕事以外はできるだけ子どもたちと過ごしたいと思っています。

家族と一緒にパラグライダーを楽しんでいます。



左/鳥取砂丘サンドボードスクール前田さん 右/砂丘YOGA石谷さん

家族が鳥取に来たときは、砂丘でパラグライダーをしたり、霊石山では娘2人をひつつけて3人で飛んだこともあります。シーズンオフは自分が飛びに行けるので、いろんな場所に出かけます。自然相手のスポーツなので気象条件や地形によって変化する上昇気流をうまくとらえられて、人より遠く長く飛べたりすると、やったー！って感じになって楽しいですね。

### 見て歩くだけじゃない砂丘の無限の可能性

これだけ広大な国立公園の自然を大切にするのは当然、それを守った上でいろんなアクティビティやさらなる可能性を広げていきたいなと思っています。そうすることによって、砂丘でこんなことやったらおもしろいんじゃないかとか、こんな商売がしたいなと思

### 若者の行動力や言動力に期待

鳥取は年配の方が元気ですね、逆に若い子たちが元気がないのは寂しいかな。年配の方の元気に若い子が負けてしまっているというか、そこに負けないで若い子たちが何か新しいことを始めたり、今までは違う角度で何かを試したりできるようなになれば、鳥取はもっと元気になるのではないかなと思います。

ゼロパラグライダースクール 校長

# 片岡 義夫

YOSHIO KATAOKA



### 鳥取砂丘の環境はパーフェクト

日本にパラグライダーが入ってきたのが約30年前、その第1回目のJHF公認パラグライダー教員を取得して、その当時から行っているのが30周年になります。

34年くらい前に鳥取砂丘でハンゲグライダーの体験を趣味でやっていて、その延長線でパラグライダーが入ってきたことで、会社としてスクールを行うようになりました。パラグライダーは向かい風に向かってしか飛ばませんが、鳥取砂



株式会社ゼロ  
鳥取県鳥取市浜坂1-16-45-2  
TEL0857-29-9098  
http://www.zero-para.co.jp/  
ゼロパラグライダースクールでは砂丘で行う初心者向けのパラグライダー体験、B級ライセンスの方やタンデム飛行の方のスクールを霊石山で行っています。



スキーシーズンになると、ヒュッテ白樺前に現れる、巨大カバかまくら。



**山(氷ノ山)あり、海あり、砂丘あり。**  
約1時間圏内で海も山も砂丘も楽しめる環境は、ここ鳥取にしかないでしょう。  
鳥取の山といえば、やはり大山がまず浮かびますが、氷ノ山は兵庫県では一番高い山。特に関西方面から人気が高いです。氷ノ山は自然の希少植物や希少動物も多く

生息しています。冬は樹氷も見られます。県内の方には自然が身近過ぎてその魅力を感じにくく、自然体験はいつでも出来るからとあまりされてないように思います。しかし体験するとその楽しさにハマリ、リピーターも多いんです。  
**「リスの森」「氷ノ山」「若桜氷ノ山樹氷太鼓の会」**  
うちの子どもたちに遊園地行くのとリスの森に行くのどっちにする？って聞くと、「リスの森」って即答しますよ。若桜ニホンリスの森作りプロジェクトのメンバーの一員でもあり、子どもたちと大人も一緒になって秘密基地として「リスの森」で遊んでいます。  
空き時間を見つけては氷ノ山に年間100回近く登っています。図鑑には植物の一番美しい所しか載っていないけど、毎日のように登ると、昨日までは咲いていなかったつぼみがこんな花や実になるんだーっていう、新しい発見に出会うんです。それが楽しいです。  
雪山のバックカントリやスノーシューハイイク等、雪原の別世界に出会えるのも冬山の魅力です。若桜氷ノ山樹氷太鼓の会の代表として、メンバーと共に練習を重ねています。氷ノ山を愛する仲間が集い結成し、氷ノ山の魅力を和太鼓の音で表現しながら若桜町内外のイベントに出演しPR活動を行っています。

春は山菜採りをして、天ぷらにして食べたり、夏は川でシャワークラミングや魚つかみ、BBQなど、また秋には登山やツリーイングなどの森遊びがオススメ。オールシーズンその季節に応じた自然体験を通しての仲間づくりが目的です。対象を小学生中心にしていますが、親子会などのグループでの体験活動も受付けています。お客様からの要望にもできる限り応えます。

昨年、日本山岳ガイドの資格を取得したので、山の案内などの活動の幅を増やして行きたいと思っています。例えば、ご来光ツアーは現在イチ押し企画です！山は天候が変わりやすく、様々なリスクを伴います。そこで私たちガイドがおお客様の安全と、目の前の新しい発見を共に楽しみながら歩く事が出来る嬉しです。氷ノ山にはたくさん仲間がいます。様々な視点で意見交換をしながら、氷ノ山の面白さを伝えていければと思っています。  
近年ではBMWモトロードキャンプやトレイルランニングレースが開催されましたが、観光やアクティビティとして夏場の氷ノ山を楽しめる環境が他にもっとあればと思っています。

**その自然にこそ最大の魅力がある**  
近年、鳥取のいろいろなフィールドが県外から注目されています。逆に県外から注目される鳥取の良さを、地元の人が気づいていないように思います。  
鳥取は田舎だし、山しかない！ではなく、その田舎だからこそ、その山に魅力があるって事に気づいて貰えたらと願っています。そこにはまず、そこで育った私たち大人が、それぞれのフィールドでバカになって遊ぶ事です！  
さあ、皆さんも一緒に！！



氷ノ山ではオールシーズン豊富な自然体験が可能です。



**若桜氷ノ山の伝道師として**

若桜氷ノ山の伝道師として  
近年、日本山岳ガイドの資格を取得したので、山の案内などの活動の幅を増やして行きたいと思っています。例えば、ご来光ツアーは現在イチ押し企画です！山は天候が変わりやすく、様々なリスクを伴います。そこで私たちガイドがおお客様の安全と、目の前の新しい発見を共に楽しみながら歩く事が出来る嬉しです。氷ノ山にはたくさん仲間がいます。様々な視点で意見交換をしながら、氷ノ山の面白さを伝えていければと思っています。  
近年ではBMWモトロードキャンプやトレイルランニングレースが開催されましたが、観光やアクティビティとして夏場の氷ノ山を楽しめる環境が他にもっとあればと思っています。



ヒュッテ白樺

# 森岡 則明

NORIAKI MORIOKA



ヒュッテ白樺

鳥取県八頭郡若桜町つくよね631-29

TEL0858-82-0955

http://www.h3.dion.ne.jp/~sirakaba/

●若桜町青少年育成アドバイザー ●若桜氷ノ山樹氷太鼓の会代表 ●氷ノ山遭難救助隊 ●氷ノ山登山ガイドクラブ ●NACSJ自然観察指導員 ●日本山岳ガイド協会登山ガイド

**氷ノ山の自然体験はオールシーズン**

キッズキャンプを本格的に行い始めたのは、10年くらい前になりました。家族連れのお客さんからスキーを教えて欲しいという要望に応えていくうちに、泊まりこみで来てくれた教家族から、こんな企画してくれたら参加するのになーって声があつて、じゃあキッズキャンプとして企画してみようーってこれまで開催を重ねてきました。冬のスキーや雪遊びだけでなく、

氷ノ山は遊びの宝庫。  
春夏秋冬、異なった山の息吹を感じながら仲間と一緒に駆け出そう。

子どもたちのヒーロー  
ひまうのせん  
氷ノ山の心優しい山男





# 自然豊かな森に 子どもたちの声を響かす開拓者



特定非営利活動法人 智頭町森のようちえん まるとんぼう 理事長

## 西村早栄子

SAEKO NISHIMURA



特定非営利活動法人 智頭町  
森のようちえん まるとんぼう  
鳥取県八頭郡智頭町大屋407  
TEL0858-78-6789  
http://marutanbou.org/

東京都出身。大学在学中にマンゴローブ研究に興味を持ち、1年半ミャンマーへ留学する。夫の出身地である鳥取の県庁に入庁後、智頭町へ移住し、子育てしながら2009年「森のようちえん まるとんぼう」を開園。2014年フリースクール「新田サドベリースクール」を開校。



育みのまち智頭町に  
惚れ込みました。

東京出身ということもあり以前から田舎暮らしへの憧れがありました。京大在学中に結婚した主人の出身地が鳥取だったことで、最初は主人の実家の鳥取市に住みました。

その後、県の八頭総合事務所での林業の技師として働いている時、現場となる智頭町によく入るようになり、智頭町にどっぷり惚れ込んでしまいました。

こんな山の息吹を感じられる所

「フリースクール」というフリースクールを2014年から始めました。今はこのスタッフとしても活動しています。

あともうひとつ大きな目標として、今度は森のようちえんに入る前の赤ちゃんを産むところから関わりたいと思っています。自然分娩ができる産院を智頭に作ろうという動きもあって、これに携われたいと思っています。

移住者が鳥取の  
魅力を引き出す

鳥取は人口が少ない分、行政との距離も近いですが、何か新しいことを始める時に協力を得られやすい環境だと思っています。

私自身もそうですが、鳥取には若い移住者が増えてきています。よそ者から見ると、鳥取の魅力が逆に分かるという点では、移住者が鳥取の可能性を引き上げていることに一役かっているのかもしれないと思っています。

まるでたんぼうのフイールドは  
雨の日も雪の日も森。  
大きなリュックを背負って  
長靴を履いた子どもたちの元気な声が  
今日も智頭町の森のどこかで聞こえてくる。



森の中には新しい発見がいっぱい。

町内14箇所のフイールドのどこかで毎日活動しています。

で子育てできたらいいなと思って、2007年に智頭町大屋の古民家に移住しました。  
それと同時に、2人目の育児と重なって、智頭ですごく満たされた子育てを自分なりに2年間することができ、これは自分ひとりですごく楽しいのはもったいない！  
っと思いはじめたんです。

### 日本10大林業地 智頭のフイールド

東京出身なので思うことなのかもしれないですけど、こういった田舎でのんびり子育てしたいと思っている人がいっぱいおられると思ったんです。そういう人たちに情報発信したいと思っていました。以前デンマークやドイツにある森のようちえんについて書かれた本を読んでいたので、この森のまち智頭町で森のようちえんを作ったら、田舎で子育てしたい人が集まってくるんじゃないかな、  
と思ったのがきっかけです。

智頭は有名な伝統林業地であり、すばらしい森が至る所にあつて、この豊かな自然環境を120%使いたいなせば、ここ智頭ならではの魅力的な森のようちえんができる！と確信しました。

### 見守り保育が 主体性を育てる

「この方針でもある「見守り保育」は、子どもがものすごく育つんです。自分で考えて、自分で判断して、自分で解決する、という力が



地域の方に昔からの遊びや知恵を教わります。



とっとりの元気づくり  
東部プロジェクト  
幹事長 間屋口さん  
特定非営利活動法人  
地域スポーツ推進協会

とっとりの元気づくり  
東部プロジェクト  
副幹事長 長谷川さん  
鳥取県自然体験塾

山下さん  
Develop SURF&SEA

森岡さん  
ヒュッテ白樺

中谷さん  
Tottori Blue Snorkel  
& Photo Service

とっとりの元気づくり  
東部プロジェクト  
幹事 大塚さん  
特定非営利活動法人  
ハーモニカレッジ

## これから先、思うことは?

**長谷川:**外国人の旅行客が増加傾向にある中で、ゴールデンルートの東京や大阪、京都はもうあふれているので、鳥取にも来るようになってきているんですよ。だから、僕は面白いルートを作れば、さらに来てくれると考えている。今年から地元の用瀬で「癒し歩き」というのをやろうと思っていて、他にもそういう面白いことがいっぱいあると思うんですよ。だけどその資源の活かし方にまだ気づいてなかったり、活かせるスキルがなかったりするの、活かせるアクティビティを生んでいくよう、自分たちが考えていけたらいいですね。

**森 岡:**僕は去年ガイドの資格を取ったんで氷ノ山のご来光ツアーというのをたまにやってます。山頂まで上がって日の出を見るって、ほんと感動的。自分も大人になるまで近くにこんな景色があるなんて気づかなかったし。見た人はみんな感動して、「また行きたい」ってリピーターも多いんですよ。氷ノ山でのご来光見て、砂丘で海に沈む夕日を見るとき今日1日の太陽を日の出から、日の入りまで鳥取で見るというツアーとかできたらなって考えてますね。

**大 堀:**この夏、子どもたちにツリーイングを教えていたインストラクターが、木の上から見る景色と下から見える景色をどんな風に見えるか子どもたちに投げかけてたんですよ。要は、自分のモノの見方って日常の中でも、視点を変えればいろんなモノの見え方ができるよねって伝えて。子どもたちは自然の中で、心が開かれている状態でそれを聞いているから、心に言葉がドーンって入っていて、帰り道、木に「ありがとう」とか「根っこ踏んづけてごめんね」とか言ってるんですよ！それで、あー、こういうインストラクターになりたいなって。ただ自然体験するだけじゃなくて、そこにちょっと違う視点を当ててあげることで、自然がより際立つんやなって。

**間屋口:**ガイドや指導する側の人間の「幅」っていうのは必要なかも。

**山 下:**自分はまだプレイヤーだから、とにかく子どもたちにサーフィンさせたい。サーフィンの楽しさと海の危険を学校教育の中で教えたい。20年以上サーフィンやってるけどまだ上手になりたいし、まだまだ海にも入りたいもん。それぐらい楽しいスポーツだと思うから、それを伝

えたい。

**間屋口:**すごい！キング感のある台詞でしたね。50になっても60になってもみたいな(笑)

**中 谷:**僕が鳥取の自然に魅せられているその共通となる感覚は「浮遊感」。スキーだと新雪を滑っている時、海だと水中で浮きも沈みもしない状態で漂っている時、サーフィンだと波に乗った瞬間。全てが日常では体験できない無重力な感覚ですね。これがやみつきの根源。しかもそこにいないと見ることができない特別な景色が繰り広げられる。それを撮るためにさらに夢中になっちゃうってサイクル。

**間屋口:**普段見ることができない景色を見るってことが新しい発見だったりするので、鳥取でこんな見られるんだっていう気づきになりますよね。中谷さんの写真はまさにそれですよ！

**森 岡:**山でもありますね。景色もそうですが、同じ山、同じコースを歩いても、昨日はまだつぼみだった植物が今日は綺麗な花を咲かせてる！とか。その時、その瞬間じゃないと出会えない新しい発見がたくさんあります。

**山 下:**サーフィンでも人に教えたくないくらいいい波に出会う時がありますよ。これは独り占めしたいって(笑)

**間屋口:**トレイルオンのファットバイクをしている砂丘のカット(右下の写真)もすごいですよ！ここ鳥取??って思える風景！

**大 堀:**見たい！見たい！（皆がスマホの写真を覗き込む）

**山 下:**えー、すごい！これが砂丘の海？ウユニ塩湖みたい！

**中 谷:**レアな体験ですね。こういう場所もそうだけど、地元の人も最近意識が変わってきて、例えば砂丘に雪が降ればやってくるわけですよ。目的はSNSアップ。それはやっぱり鳥取の景色を自慢したいんですよ。

**森 岡:**本当にそうですね。気づくところがいっぱいありますもんね。

**中 谷:**だから地元の人は何も無い田舎だと思わずに、もっと鳥取に自信持っていんですよ。

**間屋口:**そこをここに我々が率先してアピールしたいですね。(皆が納得)

鳥取自慢を「とっとり人」が広めていきたい。  
そして、そんな「とっとり人」も育てたい。



鳥取砂丘で体験中のファットバイク  
(提供: TRAIL ON)

# 「とっとり人」番外編

まだまだ話し足りないようなので、「とっとり人」の集う場所で話をきいてみました。



(取材場所: ぐらっちゃん本店/鳥取市)

## 自然体験を提供していて 気になっていることは?

**中 谷:**最近親子で参加される方でたまに違和感を感じているのが、子どもの服やウェットスーツの脱ぎ着を親がしてやるんですよ。

**山 下:**あー、ありますね。(皆が分かります！とうなずく)

**長谷川:**ガイドが言ったことを子どもにまた通訳のように話をする親とかね。

**大 堀:**子どもに話しかけるのに、親がヒュッと入ってきて親が出て答えたり。僕たちは子ども一人一人と向き合いたいと思っているだけなんですけどね。

**森 岡:**うちのキッズキャンプは親は送り迎えだけで、あとはクローズなんでそういうことはないんですけど。

**間屋口:**いわゆる母子分離過程って、子どもと親が離れる過程をどうやって健全に育成するかっていうことになると思うんです。それが形成されにくいから、今の子どもは寂しいとすぐ感じたり、孤独や暇が耐えられない。(皆がうなずく)

**間屋口:**それでは、学校教育の中での現状はどうなんですか？

**森 岡:**県内の小・中・高のスキー合宿を受け入れているんですけど、高校は2泊していたのが1泊になったり減ってますね。保護者からも怪我を気にされたりすると、やっぱりそういう決断になったりするんじゃないですかね。

**間屋口:**でも本来であれば、そこって重要ですよ。学校教育の中にスキー合宿が入ることで、卒業して大人になってからもグレンダに行く、自然に触れる可能性があるわけですから。

**中 谷:**臨海学校もそうだけど、危険を伴うものは敬遠される風潮になってきている。

**間屋口:**スキーだけでなく、雪遊びでもいいような気がするけど。単純に雪合戦とか。

**山 下:**僕が同行した学校は雪合戦禁止ですよ。これは授業だからって。  
**間屋口:**そうなると、スポーツの研修ではなく、「自然を使った学習」という位置づけにした方がいいかもしれませんね。

**大 堀:**小さい時から自然学習に親しむ環境があるといいですよ。自然体験プログラムをしていると、パッと子どもの心が開く瞬間があるんですよ。この経験は子どもたちにとって大事な事だと思う。

**間屋口:**教育できちんと位置づけていけば、自然の使い方がもっと分かるの。実際に自然を使っていい経験をしたという声があるにもかかわらず、学校現場の教育の中でこれが遠のくっていうのは、なんか逆行していつているような気がしますけどね。

**中 谷:**海や山に行くのは、教育的な成果を求めて行くのと、レジャーや観光の目的で行くのとある。例えば観光だと人とは違ったことをやるのが達成感だったりする。これは教育にはないもの。

**間屋口:**自然体験を学校教育の中でできることが理想ではあるけれど、なかなかそう簡単にはできないですよ。

**長谷川:**僕は若美西小学校でカヌー教える。

**山 下:**若美北小学校でサーフィン教えてます。若美は結構ありますよね。

**中 谷:**若美町の場合、ジオパークの地域学習の一環としてもやっている。

**間屋口:**そうですね、学校教育の中に自然体験まで任せてしまうと、それを担う先生への負担が大きくなってしまいますね。若美町のように他の学校も地域学習の一環で我々が自然学習を教えればいいいわけですよ。そしたら先生も一緒にシャワーライミングを楽しめる(笑)

自然体験が持っている力は  
ただ単にアクティビティ、スポーツ、レジャーとしてだけでなく  
「学習」という、うたっていない重要な部分があるんです。